

令和3年度事業報告書

資料1

特定非営利活動法人子どもセンター帆希

1. 子どもシェルター運営事業

令和3年度は、前年度から引き続き、新型コロナウイルス感染症予防のため、同時入所の人数制限を継続しました。このため、新規入所人数は12名（前年度から引き続き入所数と合算した延べ入所人数は13名）と少なめでしたが、年間通じてほぼ満室状態での運営となりました。

入所日数（年度内退所者のみ集計）については、最短で20日、最長で136日、一人当たり平均すると64日程度であり、概ね2か月以内の一時的な利用となりました。新規入所者のうち、18歳以上の子が7名おり、初めて過半数を超えました。また、児童相談所以外のルートからの入所も7名となっており、子ども本人や市役所などの関係機関から相談から入所となったケースが多い点も特徴的でした。子どもシェルターの存在が広く知られるようになってきたこと、児童相談所による一時保護ができない年齢となったお子さんの避難場所として機能してきたことが実感できる年となりました。

なお、今年度は11月に自立援助ホームかぜまちの家を開所したことから、10月に入所相談が増加しました。相談窓口は1つで、利用希望の施設種別による区別をしていないため、下記の相談件数は両施設の相談を合算したものになります。

【令和3年度 入所相談件数及び入所件数】

	問い合わせ元					入所件数	
	本人 (知人・親族)	児相	弁護士	その他	合計	はるつげ	かぜまち
R3.4				2	2	2	-
R3.5	2				2	0	-
R3.6				1	1	1	-
R3.7				2	2	0	-
R3.8	3	5			8	3	-
R3.9			1	1	2	1	-
R3.10		9			9	1	-
R3.11				4	4	0	4
R3.12	2	2			4	2	2
R4.1				1	1	1	0
R4.2	1	1	1	1	4	0	0
R4.3			1		1	1	0
	8	17	3	12	40	12	6

※その他…市町村、他県の子どもシェルターなどの関係機関

2. 自立援助ホーム運営事業

令和3年11月1日、自立援助ホームかぜまちの家を開設しました。これまで子どもシェルターはるつげ荘に入所した子の大半が高校生などの学生でしたが、所属している学校に継続して通学できる退所先がなかなか見つからず、入所期間が長期化することが問題となっていました。これを解消するために立ち上げたのがかぜまちの家で、入所対象者は高校生や大学生などの学生を想定しています。

開所当月の11月に4名、翌12月に2名の入所があり、開所後1か月で満室となりました。入所者は、全員高校生で、一時保護を経ての入所であったため、登校再開には不安もありましたが、学校の協力を得て、皆スムーズに登校を開始することができました。通学に1時間以上かかる子もいますが、皆、毎朝、職員が作ったお弁当を持って元気に登校することができました。今春、全員が進級し、高3生は志望大学に合格し、晴れて大学生となりました。

令和3年度 入退所者数（人）

入所数	退所数
6	0

令和3年度 在所者の構成（人）

高1	高2	高3	大学	専門学校	就職
1	4	1	0	0	0

令和4年3月末日現在

3. 研修

① 新任職員研修

職員を対象とした研修を次のとおり実施しました。

◆令和3年5月26日 抱っこ法を取り入れた支援について
講師 鈴木敏子（はぐくみ塾代表）

◆令和4年3月 新任職員研修
～4月12日 令和元年度実施のボランティア研修動画視聴

◆令和4年3月15日 新任職員研修
支援指針及び支援指針細則のオリエンテーション

② ボランティア研修

未実施

4. 子どもの権利に関する広報・啓発事業

(1) シンポジウム

「子どもシェルターと児童虐待 ～子どもたちの安心安全な居場所を目指して～」

令和3年5月15日 13:00～17:00 オンライン開催

- ・基調講演：中本忠子様（元保護司）
- ・子どもシェルター実践報告：中溝副理事長、村山理事
- ・パネルディスカッション：後藤理事長（コーディネーター）
川瀬信一（児童自立支援施設生実学校分教室教諭）
杉山春（ルポライター）
大久保真紀（朝日新聞記者）
高橋克己（児童養護施設はぐくみの杜統括施設長）
中溝副理事長

・実施状況

およそ300名の方にご視聴いただきました。

困難を抱える子どもたちの現状と課題が示し、シェルターのような子どもの居場所を社会全体で作りに上げていくことは喫緊の課題であり、今後さらに注力すべきことであることを確認することができました。新聞をはじめとした各種メディアに取り上げられたため、千葉県の子どもシェルターの存在が広く社会や子どもたちに認知され、虐待防止と子どものサポートに繋がりました。

(2) 子どもシェルター全国ネットワーク会議 in オンライン（千葉開催）

令和4年3月26日 10:00～18:00 オンライン開催

- ・全国ネットワーク会議臨時総会
- ・施設見学オンラインツアー（はるつげ荘、かぜまちの家の紹介）
- ・分科会：①運営分科会 ②職員分科会 ③コタン分科会
④自立援助ホーム分科会

・実施状況

現地開催を目指していましたが、コロナ感染症予防の観点から、オンラインによる開催をすることとなりました。

臨時総会では全国ネット事務局が中心となって討論を行いました。分科会では、テーマ設定、アンケート分析、議事進行の全てを帆希が中心となって実施しました。千葉での取り組みの紹介とこれに関する意見交換を行い、千葉らしさ、帆希らしさが溢れる議論となりました。また、オンラインツアーでは、安心安全な生活環境をどのように作っているか千葉の取り組みを紹介することができました。全国会議終了後、任意参加のオンライン懇親会を開催し、各地の実情や悩みなどを忌憚なく話し合うこともできました。

各地の実践を知ると共に、有意義な討論を経て、私たちの取り組みを再確認する機会となりました。

(3)その他

- 令和3年 4月13日 SNS (Twitter, Facebook, Instagram) 開設
- 令和3年 4月22日 朝日新聞「子どもの居場所シンポで考える」にて紹介
- 令和3年 4月30日 毎日新聞「虐待、貧困子どもを守れ」にて紹介
- 令和3年 5月 3日 千葉日報「児童虐待、安全な居場所とは？
子どもシェルター考える 15日、オンラインでシンポ」にて紹介
- 令和3年 5月11日 ニュースレターno.6 発行
- 令和3年 5月16日 NHK 首都圏ニュースにてシンポジウムの紹介
- 令和3年 8月 4日 自立援助ホーム設立へのクラウドファンディング開設
- 令和3年 9月10日 児相長会議出席 (理事長)
- 令和3年10月 1日 ニュースレターno.7 発行
- 令和3年10月22日 千葉市長表敬訪問 (理事長、中溝副理事長、松田理事)
桜井市議、田畑市議と共に千葉市長と面談し、
かぜまちの家開設を報告
- 令和3年10月27日
～ 28日 自立援助ホームかぜまちの家 内覧会 開催
- 令和3年10月28日 千葉市児相長訪問 (理事長)
- 令和3年10月28日 朝日新聞「NPO 団体、来月1日千葉に自立援助ホーム
設立」にて紹介
- 令和3年11月14日 千葉日報「女性自立援助ホーム開設千葉市稲毛区に
NPO」にて紹介
- 令和3年11月17日 NHK 首都圏ニュースにてかぜまちの家紹介
- 令和3年12月22日 ソロプチミスト定例会出席 (理事長) 寄付金授与
- 令和3年12月20日 東京新聞「虐待を受けた子らに居場所 千葉市のNPO
が女性専用の自立援助ホーム開設 大学生と高校生対
象」にて紹介
- 令和4年 2月18日 市町村説明会開催 (理事長、水鳥川副理事長、松田理事
他) 17市町村参加

3. 事業実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に関する事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費(千円)
子どもシェルター運営事業	子どもシェルター等運営のための人材育成	3回	千葉市内	3	新任職員(採用予定者含む)4名	25
	子どもシェルターを運営し、居場所のない子どもを引き受ける	随時	千葉市内	9	居場所のない子ども13名	28870
	児童相談所、女性サポートセンターとの協議会	9月10日	千葉市内	1	児童相談所長	0
自立援助ホーム運営事業	自立援助ホームを運営し、継続的な居場所を提供し子どもたちの自立を支援する	11月開所	千葉市内	5	児童自立生活援助事業対象の子ども6名	23874
困難を抱えた子どもに対する法的支援活動事業	シェルター入所の子どもに対する法的支援	随時	千葉市内	3	子どもシェルター等入所の子ども13名程度	130
未成年後見に関する事業	未成年後見人の受任	実施せず				
子どもの権利に関する広報・啓発事業	子どもシェルター等の広報と寄付を募るためにシンポジウムを開催する	シンポジウム 5月15日 全国会議 3月26日	千葉市内	5	シンポジウム 一般市民 300名 全国会議 シェルター関係者 180名	704
	ニュースレター・リーフレット作成等普及啓発活動	5月11日 10月1日	法人事務所	3	子どもシェルター等に関心のある不特定多数	687
	市町村の児童虐待担当者向けの説明会を開催する	1回	千葉市内	3	市町村の児童虐待対応担当者17名	0

(2) その他の事業

なし